河川景観要素の分析について

福山大学工学部　正員　三輪　利英
アーバンスタディ研究所　正員　藤墳　忠司
㈱福山コンサルタント　正員　浜縁　法幸
㈱フドウ道路　正員　○潟岡　正則

1．はじめに

「河川景観」における水の流れは、「街路景観」での人の流れ（車の流れ）に相当し、山並はビル街に、そして川は道路に相当する。こうした共通点の多い中で、唯一違っている点は、「河川景観」は自然物が主であるのに対し、「街路景観」は人工物が主であるということである。

本研究では、直轄河川65工事事務所から、その河川における「河川八景」と題して、一河川につき8枚の写真を送付してもらい、それらを用いて河川景観の特徴を探求しようとするものである。

2．研究方法

「山並」「天空」「水面の見え」の3つの構成要素について割合を出す。写真は564枚の中から選んだ1例であり、写真を6（横）×4（縦）＝24のメッシュで分割する。

各構成要素のカテゴリーを表-1のように3つに分ける。

表-1 構成要素のｶﾃｺﾞﾘｰ

面積の割合(%)	ｶﾃｺﾞﾘｰ
0 ～ 33.33	少ない
33.34～ 66.66	普　通
66.67～100.00	多　い

図-1 八景の写真

3．研究結果

送られてきた「564枚」の写真を3つの構成要素の割合によって分類すると表-2のように10種類の型に分けられる。この結果、ケースAが最も枚数が多かった。したがって、「河川景観」は「山並」「天空」「水面の見え」の3つの構成要素がうまく調和しているという点が重要な要素であるのではないかと考えられる。

表-2 構成要素による分類

分類ｹｰｽ	構成要素		
	山並	天空	水面
A	少ない	少ない	少ない
B	少ない	少ない	普通
C	少ない	少ない	多い
D	少ない	普通	少ない
E	少ない	普通	普通
F	少ない	多い	少ない
G	普通	少ない	少ない
H	普通	少ない	普通
I	普通	普通	少ない
J	多い	少ない	少ない

しかしカテゴリーの「少ない」は0%を含んでいるので、3つの構成要素のバランスがとれているとはいえない。そこで「山

並」「天空」「水面の見え」の3つのうち、1つでも0%、又は滝があるもの除外した。その結果「333枚」に限定できた。さらに1つでも10%以内か「夜景」、「イベント」など河川が中心でない写真を除外した結果、「88枚」と限定された。図－2より、写真の割合はどの枚数においてもケースＡが40%と半数近くを占めている。したがって「河川景観」は水面だけでなく、他の要素とのバランスが重要である（表-2）と考えられる。

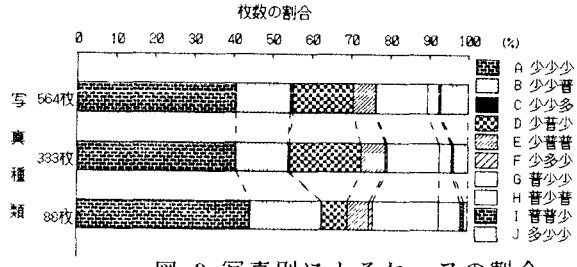

図-2 写真別によるケースの割合

次に三角座標を用いて、構成要素の特徴を見る。写真の中には、山、空、水面の他に人工物が写っているものもあるので、3つの構成要素以外のものを「その他」とし、「山並」「天空」「水面の見え」「その他」の4つを用いて、三角座標を作成する。視覚の点から「山並」「天空」「水面の見え＋その他」で三角座標を描くと、図-3のようになった。図-3より「山並」が10%～50%、「天空」が10%～50%、「水面の見え＋その他」が50%～80%のところで三角の一角に集中している。これは「山並」「天空」よりも、「河川八景」ということから水面を多くとっているために「水面の見え」が多く、あとは景観的に「山並」「天空」が入ってきているのではないかと考えられる。

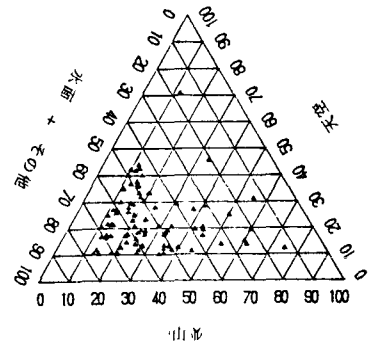

図-3 三角座標による構成要素

4．考察

今回の研究では、「山並」「天空」「水面の見え」の3つの構成要素を用いて、メッシュから「河川景観」の特徴を考察した。その結果、「山並」「天空」「水面の見え」の3つの構成要素がうまく調和していることが重要な要素であると考えられる。送られてきた写真の中には、河川をメインに写していないものもあったので、今後研究を進めるにあたっては、このような特殊な例の写真（滝、夜景、イベントなど）を予め除外したほうが、河川景観として、一般的な特徴が得られると考えられる。最後に、写真を提供し、協力をいただいた各河川工事事務所に対し感謝の意を表します。

＜参考文献＞

１）「水辺の景観設計」　土木学会編　昭和６３年　（技報堂出版）
２）「風景の心理学」　芦屋大学教授　稲垣光久著　昭和４２年　（所書店）